

会議録

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	教育総務課		
会議名 (審議会等名)	令和7年度 第2回 嬉野の大チャノキ部会				
開催日時	令和7年12月4日(木) 10:00~11:30				
開催場所	チャオシル 研修室				
傍聴の可否	可	不可	一部不可		
		傍聴者数	0人		
傍聴不可・一部不可の場合はその理由					
出席者	委員	釘本和仁、辻田正信、宮崎好一郎、池田聖吾、瀬戸口直子			
	事務局	教育長、教育部長、教育総務課長、教育総務課副課長、教育総務課職員2名			
	その他	委託業者職員3名、佐賀県文化課職員1名、茶業振興課職員1名			
会議の議題	別紙のとおり				
配布資料	(1) 議題 (2) 名簿 (3) 各種資料				
審議等の内容	・審議内容等は別紙のとおり				

審議等の内容

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	教育総務課
議題		令和7年度事業の報告と令和8年度事業の予定について	
内容		事務局より、令和7年度の事業実施状況等の報告と令和8年度事業の予定を説明。	
審議経過	事務局	<p>令和7年度の事業実施状況の報告</p> <p>木柵の撤去及びプラ擬木柵の設置について</p> <p>樹勢回復業務は業者に委託している。詳細については後程業者が説明。</p> <p>現在大チャノキは侵入を防止するための柵がある。2017年に木柵を設置した後、想定よりも早く腐朽が進み、危険性があった。そのため今年度木柵からプラ擬木の柵へ変更した。改修工事は9月から始まり、10月に木柵の撤去及び新しい柵の設置工事が行われた。平面図について青い部分がプラ擬木を示し、隣接する細いラインがかつての木柵部分を示す。木柵の撤去及びプラ擬木柵設置工事の際、樹木医と学芸員が立ち会ったが、地中に太く大きい根や中くらいの根は発見されなかった。木柵まで根は張っておらず、根に影響がないよう工事ができたと考えられる。市からの説明は以上。次に令和7年度事業について委託業者より説明。</p>	
	委託業者	<p>令和7年度樹勢回復業務について</p> <p>茶樹の保護のため剪定を行い、10月上旬に完了。昨年は剪定をしていないが、今年は樹幹の過密が認められるため剪定した。支柱の設置は1月予定のところ台風などを考慮して9月に変更し、実施が完了した。現地調査でも見てほしいが、これにより垂れ枝は改善傾向にあると考えられる。敷き藁の設置は4月に完了した。病害虫防除及び施肥の実施について、4月から6月にかけてハダニや菌の抑制のため薬剤を散布。また樹勢改善のための薬剤や成長促進剤を4月、6月、7月、9月のそれぞれで散布した。土壤改良について、1月に実施予定であり、4つにわけた区画のうち令和7年度は2区画目を行う。作業の際は樹木医が立ち会い、根に影響があると判断された場合は設置位置の変更や作業中止など臨機応変に対応する。</p>	

	<p>萎黄病の調査については 10 月上旬に完了し、結果についてはこの後報告する。</p> <p>委員 令和 7 年度事業についての質疑はないか。</p> <p>では萎黄病の報告をお願いします。</p> <p>委託業者 萎黄病の調査について、大チャノキを複数の群にわけ、萎黄病の発症度を目視で確認し、6 段階で評価をする。結果、今年は前年に比べ発症率は減少している。新芽の伸長量については前年と比べ増加傾向にある。一方で西側の一部は前年よりも短くなっている、これは萎黄病の発生や大枝の折損の影響と考えられる。今後も特に注意して経過観察をする。2024 年と 2025 年の同時期に撮影した大チャノキの写真を載せている。写真にもあるが、枝にコケがついている。コケに対しての対策は？</p> <p>委員 コケは種を問わず古くなるとつく。樹勢が落ちたからコケがつくのか、コケがつくから樹勢が落ちるのか議論がある。確かにコケがつくと樹勢に影響する上に虫が寄ってくることもあるので、ない方がよい。対策としては物理的にコケを落とす、または風通しをよくしてコケがつかない環境を作ること。</p> <p>意見として、資料中の写真は 2025 年度分が 2024 年度分よりも黄色く見えるが、これは環境や天候の影響か？実際に今年は昨年と比較して茶葉の色が薄い傾向にある。</p> <p>委託業者 2024 年はくもりだったが 2025 年は晴れの日に撮影したため異なって見えている。次回からは天候が同じ時に撮影する。</p> <p>委員 資料と 1 か月に一度目視した所見から、新芽について生育が悪い群もあるが全体的に良くなっている。</p> <p>委託業者 一度枝が枯れた群もあるが、こちらも回復傾向にある。</p> <p>委員 見た目も回復してきており、現地調査でも確認したい。</p> <p>委員 農薬の散布や施肥について聞きたい。</p> <p>委託業者 今年は 2 月上旬から中旬にかけて菜種油カスを 1 回、3 月と 4 月または 6 月に硫安を 2 回散布した。7 月に pH の調整のため石灰を第 1 回部会のとおりに散布し、来年度も菜種油カスを 3 度散布する。</p> <p>委員 進捗について、病害虫防除について薬剤の散布は資料のとおり行うのか。</p> <p>委託業者 そのとおりに行う。</p> <p>委員 ハダニや菌に対して薬剤を連用すると抵抗性ができる。散布には成分の異なる薬剤（商品名が異なっても成分が同じだと意味がない）を使用した方がよいのではないか。現在、大チャノキの樹勢に大きな影響を与える害虫や菌がないのであれば、4 月は使用しなくてもよい。頻繁に使用すると抗体を持つため、予防を兼ねて必要最低限にとどめていいのではないか。自分や他の委員などが異常を発見した際には市役所を通して報告するため、その都度対処する形でもよいのではないか。</p>
--	---

	<p>令和8年度の事業予定について</p> <p>令和8年度の事業について委託業者より説明</p> <p>樹幹保護について、剪定は令和7年度と同じく10月に予定。また萎黄病が目立つ部分は枝垂れも懸念されるため、令和8年度はこの部分に支柱を設置する。敷き藁設置は5月を予定、後に土にすきこみ堆肥化の予定。</p> <p>病害虫防除及び肥料の施肥について、薬剤散布は現時点ではいつ、何を用いるかについて計画を立てていない。施肥については今年と同じ肥料を同じ時期にまく予定である。</p> <p>土壤改良については再来年（令和9年）の1月を予定しており、3区画目に取り掛かる。</p> <p>令和7年度と同様に萎黄病と樹勢衰退の因果関係等についての調査と樹勢回復の経過観察のため新芽の成長量の調査を行う。またこれらの作業においては樹木医が立ち会い、現地で指導をする</p> <p>（質疑応答）</p> <p>葉が伸びているということは樹全体が大きくなっているということ。今、市内の古木が折れる事案があるため、風対策はどのようにしているのか。今後のことを考える必要がある。</p> <p>枝が重みで裂け、夏や秋の台風で折れることは何回もある。鳥居型支柱で抑制することが多い。一般的な茶園は背が低いので台風による被害は少ない。内陸では風の影響を受けることは少ないが大茶樹は開けた場所にあるため注意が必要である。当地はマキの木が防風林であるが、その対策しても影響が出る場合がある。このほかには柵や支柱よりも高いところに、今の新しい柵を利用し防風ネットをかぶせることが挙げられる。</p> <p>観光客への農薬の影響について。薬剤散布など街路で作業をしている場合には立て看板などで注意喚起がされている。大チャノキにも作業中や作業終了後には「木に触れるな」などの立て看板等の設置を検討してはいかがか。</p> <p>農薬散布の作業などは確かに注意しなければならない。観光客などへの立て看板などの配慮は必要である。貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>実際に立て看板の設置については作業を委託している業者や市が考えていくべきではないか。</p> <p>土壤改良について4区画に分けているが効果の検証などはしているのか。ステンレスのバケツを地中に埋め、1年後に掘り返し根がどれほど影響を及ぼしているか、または伸びてきた芽を調べることを検討はどうだろうか。また敷き藁は夏の乾燥対策のために行い、その後すきこむがこのとき土の中の微生物が藁を分解する。その過程の中で窒素を用いるため、窒素の量が大きく減る。そのため藁をすきこむときに窒素肥</p>
--	---

	<p>料をいれながら作業をするのがよいのではないだろうか。管理の1つとして検討してはどうか。</p> <p>来年から施肥計画を変更する。その都度成分分析を行い、必要なモノをいれていくのではどうだろうか。</p> <p>与える肥料が少ないと萎黄病が進行するため、少ないのはよくない。また多すぎるとお金がかかるうえに環境に影響を及ぼすため、都度適切なものを与える形でやっていいと思う。委員、地元代表ご意見はありますか。</p> <p>特にない。</p> <p>特にない。</p>
その他	

審議等の内容

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	教育総務課
議題	審議について		
内容	大チャノキを現地で確認し、今後の方針についての議論。		
審議経過	委員 委員 委員	花芽摘みについて、一般茶園では二番茶として花ができるもの自体を摘むので花芽がない。そのため、花がついているのは、世代交代のためで栄養が花芽に行くことは大チャノキの樹勢にとって好ましくないが、景観としては一般茶園で見られない花を見る能够点ではいい。花芽摘みについては、応募にすれば人が集まるかもしれない。 枝が揺れているので支柱はもっと必要。 枝が伸びて交差した箇所が強風で、そこで部分が折れることを繰り返している。全体的に支柱を立てるべき。夏は水の蒸発がおおく水が必要。冬場は降雨が少なくても、蒸発がそこまでないのであまり気にしなくてよい。	
その他			